

出退表示盤 シングシステムズ 機器解体・更新サービス

出退表示盤を受注生産するシングシステムズ（安佐南区長束1-16-11、新宮裕和社長）は1月6日、古くなった表示盤を解体して構造を調べ、使える部品を残して機器を最新型に更新する新サービス「リ・システム」を始めた。

出退表示盤は官公庁や社員寮などで使われている。設置後10年以上経過した表示盤を対象に、機器を解体して仕組みを調べ、現在の利用状況などに応じて無線やLEDなどを取

り入れた最新式に更新する。全てを取り換えるのではなく、使える部分を活用することでコストを最大80%削減できるとする。あらゆるメーカー・型式・仕様に対応。写真や図面があれば全国対応可能で、見積もり無料。受注した場合は機器制作費に加え、別途解析費20万円程度がかかる。平均受注額は1件100万円を見込む。既存の取引先を中心に拡販し、1年で年商を1000万円増の5000万円に引き上げたい考え。

同社は電気工事で創業し、制御盤製作やシステム設計などを手掛けてきた。主軸の出退表示盤、駐車場などへのカメラ取り付け用ポールに次ぐ第3の柱の確立へ、IoTを取り入れた新商品の開発を検討している。